あんず摘果・新梢管理講習会　資料

令和８年４月　JA グリーン長野

１　今年の生育　（東条　品種：新潟大実）

	開花始	満　開	落　花
本　年	３/２６	３/３０	４/７
昨　年	３/２８	４/７	４/１５
昨年比	－２日	－７日	－８日

【本年の状況】２月からの高温により生育が前進し３月末の２０℃前後の気温により開花から短期間で満開に至った。

２　摘果

（１）時期

果柄が柔らかく摘果しやすい

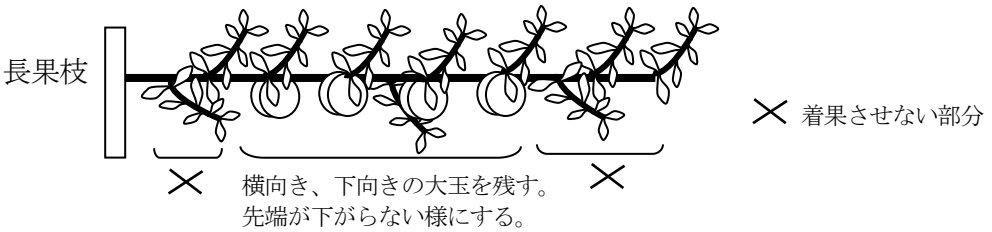
基本は果実の形状が確認できる満開後 20～25 日ころから作業を進めるが、過去の低温の影響が心配される場合は結実を確認してから行う。硬核期に入る前の満開後 40～50 日頃までには終了させたい。

果実の大きさ	主な品種	摘果の程度
中玉品種	信陽、平和、信山丸、山形３号 ゴールドコット	葉数 15～20 枚程度（結果枝５ｃｍに１果） 葉の無い枝は 10cm に１果程度
大玉品種	新潟大実、信月、（信州サワー）	葉数 25～30 枚程度
	信州大実、ハーコット	葉数 30～35 枚程度（10cm に１果）

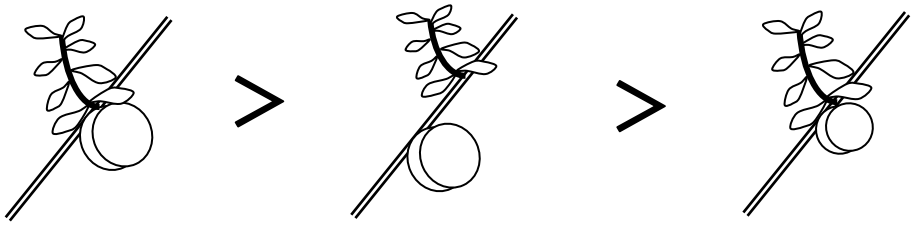
最低限の指標　→　果実が密着しないように摘果する
結果枝の太さも確認しながら着果量を調整（太い枝は多めに着果）

（３）摘果の実際

①小玉、奇形果、病害虫果、サビ果を落とす。（横にねじるようにして、決して引っぱらない）
②３０ｃｍ以上の長果枝は、中間部付近に着果させる。（二次伸長部分は小玉となる）
長果枝は枝元（目安は果実１つ分）と先端には着果させない。



③葉芽が無くても大きい果実を残す。大きさが同じであれば葉芽のある方を残す（日焼け防止、雹害防止のため）。多少着果ムラになっても肥大が良い果実を残す（養分移動は１ｍ程度）。



④新梢先端が下垂しないよう、先端には着果させない。
⑤風で揺れないような枝に着果させる（枝ずれ予防）。

（４）樹齢による摘果の違い

①**若木**：主枝・亜主枝・側枝の先端部には結実させない（つぼみのうちに取るのが理想）。
樹勢が弱い場合は、摘果程度を強くする。

②**成木**：樹冠上部や外周部の日当たりのよい部分　→　摘果程度を弱くする
樹冠内部や下枝内側の日当たりの悪い部分　→　〃　強くする

３　新梢管理　・・・次年度結果枝として使いたい枝は夏の摘心で花芽を入れる

（１）若木の管理

①主枝・亜主枝の先端付近で、延長枝以外の徒長している枝は 20ｃｍ程度伸びた頃に摘心する
（延長枝を強く伸ばすようにする）

②強く伸びる徒長枝は、６月上中旬に 40ｃｍ程度伸びた頃に摘心する

（２）成木の管理

①**日焼け防止**　・南～西面の太枝は、日焼け防止の枝を配置する
・場合によっては徒長枝を摘心・ねん枝し、日焼け防止とする

②徒長枝管理　・枝の切り口から発生する徒長枝を結果枝として使う場合は、必ず摘心する。

③はげ上がり防止（特に下枝）
基部から発生した強い枝はせん除せず､ねん枝･ため枝をして利用できるようにするとよい。

４　その他

（１）日焼け防止

枝が直径 10ｃｍを超えると日焼けが発生しやすくなる。白塗剤を塗る、日焼け防止枝を確保するなどの対策をする。

ハーコット等の特に弱い品種は、主幹部（地際～１ｍ程度の高さ）にワラを巻く。

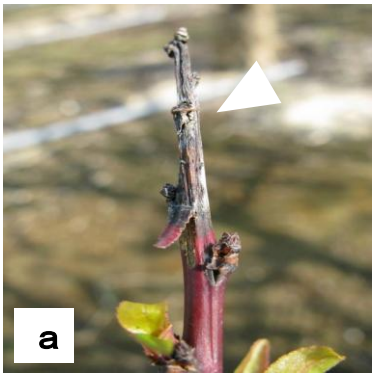
日焼け防止のためには、やや枝が混み合うくらいがよい。

→ 園全体　…密植でスタートし、徐々に間引いていくようにしたい。

樹形　…あまりこだわらず、可能な限り３年生までの枝を多めに置きたい。

（２）細菌性病害の春型枝病斑の除去（アンズせん孔細菌病、アンズかいよう病）

両病害とも、葉、果実、結果枝、新梢に発生する。一次伝染源(枝病斑)対策として伝染源の可能性が高い枝枯れ（枝先先端が枯死しているもの）、芽枯れ（発芽していない、発芽直後に枯死）、ヤニが出ているものはできるだけ早期にせん除、適切に処分する。



写真ａ
細菌性病害による
春型枝病斑(先枯れ)

写真ｂ
細菌性病害による
春型枝病斑(芽枯れ)

（３）うどんこ病

落花期以降、高温乾燥が続くと発生しやすい。
防除暦では効果のある薬剤を採用している。
５月下旬頃から確認しやすくなるので、摘果時に確認を。平和、信州大実、新潟大実で発生が多い。